

子供たちに伝えたい日本の良さ

今月のテーマ **日本の新聞の父・濱田彦藏**
～ はまだ ひこぞう ジョゼフ・ヒコ ～

現代は、新しい情報や知識・技術等が、社会のあらゆる領域で活動の基盤となる「知識基盤社会」の時代と言われています。私たちは政治や経済、事件・事故、天気予報などの様々な情報を収集し、活用しています。情報を収集する代表的なものの一つに新聞があります。日本新聞協会によると、日本で新聞は44,246,688部発行(平成27年)され、成人1,000人当たりの発行部数が410部となります。世界的に見ても、日本は新聞発行部数ランキングの上位を占めており、多くの新聞が発行されている国です。今月は、私たちの生活に欠かすことのできない新聞を発行した、「新聞の父」と言われる濱田彦藏を取り上げます。

日本で最初の新聞

元治元年(1864年)「新聞誌」発刊

この新聞が、日本で最初の新聞といわれています。濱田彦藏が外国の新聞を翻訳し、岸田吟香(新聞記者)本間潜藏(幕末から明治時代の外交官)が、ひらがな交じりの易しい日本文に直したものでした。半紙4、5枚に筆写したものをこよりで綴り、横浜市内に100部程度配っていました。



【第一号「新聞誌」】

現在の新聞の土台

彦藏は、新聞誌発行の翌年には「海外新聞」と改題し、木版刷りで26号まで発行しています。「童子にも読なん(子供にも読まれる)」とする編集方針や、18号から広告を掲載するなどの開拓精神に満ちた新聞作りは、現在の新聞の土台を築き、今でも高く評価されています。



【海外新聞】

？

彦藏は、「当時の世界情勢の中では、まずは世界のことを知らなければならぬ。そのためには新聞が必要である。」という強い思いがありました。なぜそのような思いを持ったのか、彦藏の歩んだ歴史から考えてみましょう。

濱田彦藏はどんな人

濱田彦藏は、現在の兵庫県加古郡播磨町で生まれました。幼い頃から船乗りに憧れていた彦藏は、嘉永3年(1850年)栄力丸に乗り江戸に向かいます。

航海中、紀伊半島大王岬沖で難破。52日にわたり太平洋を漂流し、南鳥島付近でアメリカの商船オークランド号に発見・救助されました。



【濱田彦藏】

彦藏は救助してくれた船員たちとともにサンフランシスコに滞在することとなります。しかし、アメリカ政府から日本へ帰還するよう命令が出て、嘉永5年(1852年)にサンフランシスコを出発し、日本に向かいます。寄港した香港からは、東インド艦隊の長官であるペリーの船に同乗し、日本へ帰還する予定でした。しかし、ペリーが軍艦の修理などで香港への到着が遅れたことや、その間に香港で出会った日本人の体験談を聞き、自分たちの存在が、日本とアメリカの外交に影響を与えてしまうのではないかと考え、ペリーの船には乗らずにアメリカに戻ることにしました。

大統領と会見した彦藏

アメリカに戻った後、嘉永6年（1853年）に、彦藏は日本人として初めてアメリカ合衆国大統領であったフランクリン・ピアースと会見しました。また、安政4年（1857年）には、次代の大統領のジェームズ・ブキャナンと、文久2年（1862年）には、エイブラハム・リンカーンと会見しました。

その後「新聞誌」を発刊しただけでなく、明治2年（1869年）には大阪造幣局の創設に尽力しました。また、日本の大蔵省に勤め、国立銀行条例の編さん、茶の輸出、精米所の経営等、政治・経済の分野で活躍し、文明開化に尽力しました。



【「日本国新聞発祥之地」の碑】

神奈川県横浜市中区に「日本国新聞発祥之地」の碑があります。碑文からは、この地で彦藏が「海外新聞」を発刊したということを読み取ることができます。

新聞について学べる施設

【ニュースパーク 日本新聞博物館】

全国の新聞・通信・放送 130社で構成する日本新聞協会が運営する総合博物館。現代の情報社会や新聞・ジャーナリズムの役割について楽しく学ぶことができます。

◆開館時間

- ・午前10時から午後5時まで（入館は午後4時半まで）
（休館日は月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は次の平日）、12月29日から1月4日まで）
※休館日等詳細はHPを御覧ください。（<http://newspark.jp/newspark/>）

◆入場料

- ・一般400円、大学生300円、高校生200円。
中学生以下無料

◆所在地、連絡先

- ・〒231-8311
横浜市中区日本大通1-1 横浜情報文化センター
（受付は2階）
TEL：045-661-2040

◆最寄り駅

- ・みなとみらい線「日本大通り駅」 3番情文センター口直結
・JR、横浜市営地下鉄「関内駅」から徒歩10分



【コレクションギャラリーの様子】

伝統・文化に関するイベント等

★ 教育庁

○東京都教育の日記念行事

「オリンピック・パラリンピック教育の推進～ボランティアマインドの醸成～」

【日時】平成28年11月5日（土）午後1時から午後5時まで

【場所】都庁第一本庁舎5階大会議場

【申込】東京都教育委員会のHPからお願いします（先着順）。

電子メールは10月21日必着、往復はがきは10月20日消印有効

（<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shogai/kyoikuday/kyoikuday.htm>）

【内容】次代を担う子供たちの教育について、都民全体で考える「東京都教育の日」記念行事を開催します。本年度は、「オリンピック・パラリンピック教育の推進～ボランティアマインドの醸成～」をテーマに、東京2020大会の成功に欠かせないボランティアに関する様々な取組をクローズアップします。子供たちによるボランティアの取組発表やアスリート等による座談会を行いますので、是非御参加ください。詳細はHPを御覧ください。

★ 都立中央図書館

○東京文化財ウィーク2016 参加企画展「いざ 江戸城へ！ー白書院・黒書院にみる儀式と年中行事」

【期間】平成28年10月29日（土）から11月13日（日）まで（11月10日（木）は休館日）

【時間】午前10時から午後5時30分まで（金曜日は、午後8時まで）

【場所】4階 企画展示室（第一会場）、多目的ホール（第二会場）

【内容】都立中央図書館特別文庫室では、重要文化財「江戸城造営関係資料（甲良家（こうらけ）伝来）」をはじめ、江戸時代後期を中心とした貴重資料を多数所蔵しており、例年東京文化財ウィークを機に企画展を開催し、これらの資料を公開しております。本年度は、江戸城における政治機能を果たした本丸御殿の大広間、白書院、黒書院のほか、大広間と白書院をつなぐ松之廊下に焦点を当て、これらの空間で行われた儀式や年中行事を通じて江戸城の魅力を御紹介します。

また、第二会場では、赤穂事件で有名な松之廊下の一部を実物大で再現し、「忠臣蔵」の世界を楽しめる展示も行います。普段はなかなか見ることのできない図面・錦絵などを御覧いただける貴重な機会です。是非御来場ください。



「千代田の御表正月元日諸侯登城格下馬」
（都立中央図書館特別文庫室所蔵）

○美術展関連・棚展示「サルバドール・ダリ」（1904-1989）

【期間】平成28年10月7日（金）から11月9日（水）まで

（11月10日（木）及び18日（金）は、休館日）

【時間】午前10時から午後9時まで（土・日・祝・休日は、午後5時30分まで）

【場所】3階 人文科学系資料・閲覧室 美術情報コーナー

【内容】奇抜な発想や行動で世間をにぎわした20世紀の巨匠、サルバドール・ダリ。絵画だけでなく、映画の制作や、演劇、ファッション分野などにも活動を広げていました。そのダリの展覧会が、六本木にある国立新美術館で開催されています（「ダリ展」12月12日（月）まで）。これに関連し、ダリに関する資料を御紹介します。

【テーマにおける引用・参考文献資料、写真提供】

・播磨町 郷土資料館

<https://www.town.harima.lg.jp/kyodoshiryokan/kanko/kyodoshiryokan/shiryokan.html>

※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等がありましたら、右記担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】東京都教育庁指導部指導企画課
電話 03-5320-6869
ファクシミリ 03-5388-1733